

日中不再戰  
日中友好



# 日本中国友好協会

# 廿小牧支部二二一入

発行所  
日本中国友好協会  
苫小牧支部  
苫小牧市有珠の沢町  
7-6-19伊藤方  
☎0144(72)5348

2016年11月5日



# 中国東北地方歴史と文化の旅・報告会を開催



#### ビデオを見る参加者



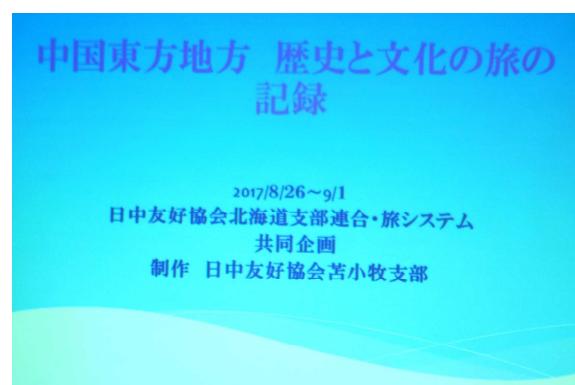
話をする河野さん

旅行日程順にそつて、ルビン、チチハル、撫順、瀋陽で見てきた「日本の侵略戦争の遺址・記念館」の内容が順次目の前に現れると、皆さん画面上に釘付けになり、食い入るように見ていました。

10月22日、中国旅行の報告会を中央図書館の講堂で行いました。当日8名の会員の参加でしたが、内容は充実したものでした。ビデオと写真を使って、河野事務局長が説明をしました。

最初のビデオは、齊藤会員が撮影したもので、出発から帰国までを、28分間にまとめたものです。見てきたことの全体の様子がよくわかりました。

# 侵略戦争の酷さを実感！



# 中国東方地方 歴史と文化の旅の 記録

2017/8/26~9/1  
日中友好協会北海道支部連合・旅システム  
共同企画  
制作 日中友好協会北海道支部



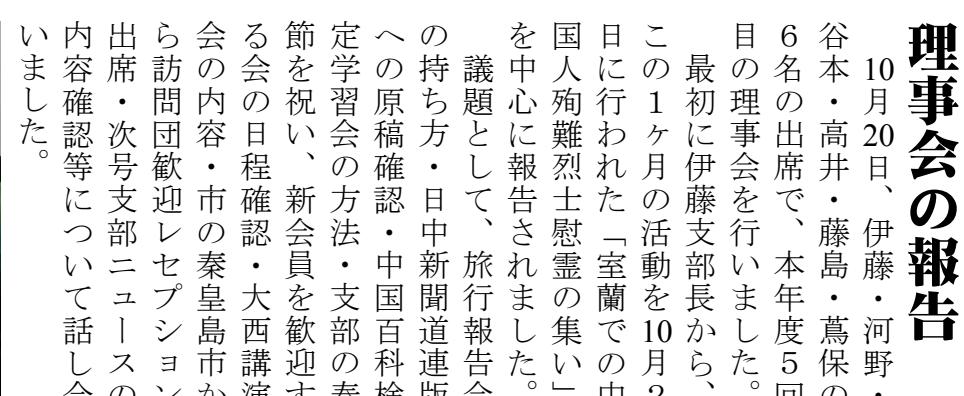
説明を聞く参加の皆さん



画面を見ながら説明をする河野さん



熱心に話し合う理事のみなさん



**中国百科検定 学習会を実施**

受験をする、しないにかかわらず、「理解は絆を強くする」の検定テーマに則って、今年も学習会をすすめることにしました。一応責任者は蔦保ということです。3月まで、毎月実施します。

10月27日に第1回目を実施しました。河野、藤島、蔦保の3名の学習会でした。最初に受験日程と学習内容、学習の進め方などについて話し合いました。

この日の学習は、中国の地理・各省・自然などを白地図を使い、省や地名などのカードを貼るパズル風にして楽しく行いました。最後に、2級・1級の問題に挑戦してみました。

# 中国人殉難烈士 室蘭慰靈のつどい

10月2日、「第24回10・9中国人殉難烈士慰靈の集い」が室蘭市イタンキ浜の慰靈碑前で行われました。

集いは、来賓挨拶、室工団による強制連行の事実を伝える「砂に消えた人々」の合唱、鳴谷道連会長の太極拳の表演と続きました。

慰靈碑

挨拶をする  
松原さん

献花をする藤島さん  
全員で黙祷の後、松原剛実行委員長が「イタンキ浜で遺骨が発掘された日にちなみ10・9を冠した慰靈を毎年続けていい」などの挨拶が行われ、続いて参会者が献花を行いました。

苫小牧支部は、他の活動と重なり、伊藤、藤島大嶽、大島の4名の参加でした。

今回の集いには、伊達高校放送局の生徒2人が参加し、高文連のコンクリー強制連行のこと、慰靈碑や集いのこと等を取り上げて発表したいと話しました。

終戦一か月前の昭和20年7月、教員だった父は現地召集され、以後、私達家族召集され、以後、私達家族と会えることはありませんでした。

「終戦の間近にあるも露知らで子らと送りぬ  
我也手を振り」

自分が生まれた所の記憶が、母の話してくれた思い出以外、全くない私と弟でしたが、今回の中国東北地方への旅は、その歴史文化を知る事と共に、更に深い

蘭市に帰国し、養護教員として働き、私達を育ててくれました。母は、父の故郷である室蘭市に過ぎて野宿の一

「病む子あり 故國瞼にしかと背に胸にも抱き手をつなぎつつ」

（次女の病みおりし時。  
3人を連れ午前3時集合  
チチハル市を出発。  
2500名の人と共に）

室蘭市在住 中村 順子

（応召の夫をチチハル市の

長男 生後80日目）

昭和21年9月、母は3人

の幼子とおむづだけを持

ち、帰国の集団に加わりま

した。

「意地と欲張合いである

母の短歌が頭の中に響きま

した。母の短歌が頭の中に響きま

した時、「松花江過ぎて野宿の一

に雨降りそぞぎ袖絞り

なむ」

「松花江過ぎて野宿の一

に雨降りそぞぎ袖絞り

生まれ故郷の生地で撮しました  
順子さんと紘さん

心に響く、感動的な感想を中村さんからお寄せいただきました。ありがとうございました。

2016.10.8 記

## 第3回中国百科検定

2017年3月20日(月)  
15時～15時50分  
札幌会場は  
かでる2・7

## 日中友好協会 新年交流会

1月29日(日)12時～  
☆KKRホテル札幌  
(中央区北4西5)  
☆会費 5000円  
☆日中友好協会北海道連と  
札幌支部の共催

## 中国の春節を祝い 新会員を歓迎する会

2月4日(土)午後6時  
中華料理店「蓬萊」  
(錦町1丁目5-11 ☎ 34-1222)  
会費 3000円  
美味しい中華料理と楽しい会話で交流をし合いましょう。

## 中国を知るための 講演会

講師 大西 広  
(日中友好協会副理事長)  
(慶應大学教授)  
・1月16日(月)午後1時  
・市民会館205号室  
主催 日中友好協会苫小牧支部

## 中国東北地方(旧満州)歴史と文化の旅の報告 第2回 ハルビン・侵華日軍731部隊遺址 (前編)

今回の中国歴史と文化の旅の大きな目的地ハルビンの侵華日軍七三一部隊遺址を訪問しました。記念館の入り口には女性職員の方が迎えに出てくれていました。大変残念でしたが、当初館長さんが面会してくれることでしたが急な用事ができ不在になりました。

この記念館は昨年リニューアルされたものです。敷地も含め大きな規模のものでした。731部隊には航空班があり飛行場も敷地内にありました。本館を出ると、電気自動車(有料)がありそれに乗って敷地内を見ることができます。正面入り口を入れると「非人道的な残虐行為」との掲示があります。731部隊は「関東軍防疫給水部」の通称です。森村誠一著「悪魔の飽食」で広く紹介されています。8つの部と4つの支援部隊及び大連衛生研究所をもち職員3000名の大きなものです。部隊の建築中の航空写真がありました。

**写真1・2 (記念館全景  
部隊建設中の航空写真)**  
写真1 部隊長は石井四郎(初代)、北野政次(2代目)  
基础研究部、実践研究部、教育部、器材部、診療部、  
防疫給水部、細菌製造部、



写真1



写真2



写真3

細菌攻撃方法の研究、野外実験、ペスト菌と炭疽菌を使つた石井式陶器製細菌弾を作り、1937年から、1942年の間、1700発の細菌爆弾を生産したとありました。

**写真3 (石井式陶器製細菌爆弾)**

甚大な被害(死亡)を与えることを想定した感染症を引き起こす細菌を大量培養するための様々な器具が残されていて展示されています。アルミ製の血清瓶、細菌培養箱、磁器製の濾過器、顕微鏡、実験動物を入れる竹籠、ネズミ捕り器、医薬品を入れる瓶などなどです。どんな細菌を培養、

なんとその中には農作物に被害を与える植物の病原菌も対象にしていました。武器として実用、製造されたものはペスト、コレラ、炭疽菌、赤痢菌など限られたものだつたようです。しかし、実験に供されました。細菌等の多さにはびっくりしました。これらを培養したりしました。これらを培養して人体実験を含め使われて、いたことを想像すると、ほんとうに震撼させるもので

ジオラマで水源らしい河川に細菌を投入する様子の大展示もありました。作業をする兵士は通常の戦闘服でしたが、もしこれが事実としたら、かかわった兵士にも感染が広がる危険性はおおいにあると感じました。また、感染させた地域に入るときには汚染させた民家をすべて焼き払い、自らの飲料水確保のため濾過器や熱湯での滅菌対策もとらざるを得なかつたようです。

このような実験で、あの陶器製の爆弾を開発し、併せての殺傷力を実証したことが想像できます。こうした野外での実験の他、直接そのものを培養体とし、感染後血液を抜き(当然死亡する)それを用いたとの記録もあります。人体感染実験で、強制的に菌を血液注入するなどし、投与した細菌の種、量によりどんな病状を示し、死に至らしめるのかを氷のような眼で觀察する医師、看護師、それを記録する者たち、死後、あるいは生きたまま解剖し臓器に与える影響を観察する、その結果死亡した者をごみのように焼却・処分した組織とそれを構成した一人一人の者たち。人を人間として扱っていない、まさか「悪魔」そのものです。

731部隊では細菌戦に係るもの以外に、毒ガス戦や凍傷に対応した研究、それらに係る野外実験なども行われ、その様子が展示されています。被験者(マルタ)を円形に一定の距離をおいた十字上の杭に縛り付け、その円形状の中心で細菌兵器を爆発させる。爆弾の破片で傷を与えないよう顔と手足首を除いて鉄の板で防御させる。細菌のみでの影響を観察できるようにするためです。

この実験で、あの陶器製の爆弾を開発し、併せての殺傷力を実証したことが想像できます。こうした野外での実験の他、直接注射器で菌を人体に注入するなどし、そうした後、感染した被験者を解剖、様々な臓器を取り出し、病理学的研究に資したのです。毒ガスに関しては密閉したガラスの実験室を設け、中に被験者(マルタ)を居させ様々な毒ガス、その濃度を変えて外部からその様子を暴露時間経過ごとに記録する。その様子が石こうで作られている実物大人形で展示されました。周囲で医師や、看護師等の「研究者」がもだえ苦しむ人々をどんな目で見つめていたのでしょうか。

